

令和7年度 教育指導の重点及び学校経営計画

学校番号	29	学校名	不破高等学校
------	----	-----	--------

社会的役割等 (スクール・ミッション)	地域と連携した教育を実践する伝統ある高校として 一人一人の良さや可能性と主体性を大切にするきめ細かな教育活動を通して 地域社会の創り手の育成を目指す学校
------------------------	--

学校教育目標 (教育方針)	歴史と伝統を誇る学校として、校訓「あかるく、さとく、たくましく」を旨とし、「知・徳・体」の調和のとれた人格の形成を図るとともに、生徒一人一人の個性的で多様な進路の実現を図る。
------------------	---

3つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を 育てたいか 【GP】	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的・基本的な学力を身に付け、主体的に課題解決に取り組む生徒 基本的生活習慣を身に付け、自分と多様な人々の生命の安全と互いの人権を尊重し、規律を守る生徒 自分に適した進路目標を見つけ、進路実現のための学力とコミュニケーション能力を身に付けた生徒
	生徒をどう 育てるか 【CP】	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的・基本的な内容の定着を図るための「学び直し」を実践するとともに、具体的な到達目標の設定と指導内容の重点化を推進 保護者との連携を図りながら共感的な生徒理解に努め、ユニバーサルデザイン（不破高スタイル）を基礎とした段階的な支援（New不破高スタイル）を実践 単位制のメリットを活用した教育課程を編成し、進路希望に即した科目選択を充実させ、自己適性の的確な理解に基づく進路目標を実現
	どんな生徒を 待っているか 【AP】	<ul style="list-style-type: none"> 学習活動にコツコツ取り組む生徒 部活動や生徒会活動、ボランティア活動に積極的に取り組む意欲のある生徒 学校生活に真摯に取り組む、進路実現を目指そうとする生徒

学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> 個に応じた指導等の充実を図るため、継続的な校内研修が必要 自ら望んで学びに向かう態度を育成する授業力の向上 保護者との連携を密にした生徒支援の在り方と校内における情報共有の方法を再構築する必要
----------	--

教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標
	学校経営	生徒の実態や社会の変化に即した、活気に満ち溢れ、魅力ある学校経営の推進
	学習指導	きめ細かな学習活動を通じた、基礎・基本の定着と主体的な学習態度の育成
	進路指導	地域との連携・探究的な学びを通し、社会的・職業的なキャリア発達を将来を通して行える資質・能力の育成
	生徒指導	保護者との連携を通して基本的生活習慣を確立し、生命の安全と互いの人権を尊重する規律ある学校づくりの推進

年度目標				年度末評価(自己評価)			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	県教育振興 基本計画での 位置付け	達成度の判断・判断基準 あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合 評価 A. B. C. D
学校経営	「不破ウィーク」の実践を通して、生徒の主体性を育み一人一人の自己有用感を育成する。	施策Ⅰ-1	実施後アンケート結果、生徒向け外部評価等				
	生徒が主体となった広報活動を通して、生徒の自己肯定感の向上と魅力ある学校づくりを推進する。	施策Ⅳ-20	生徒・保護者向け外部評価等				
	学校運営協議会を中心に、外部の有識者等の意見を積極的に取り入れ、活性化を推進する。	施策Ⅳ-20	年3回の学校運営協議会における意見、評価等				
	校内研修の充実と自校型の通級による指導等の実践により、高校における特別支援教育を推進する。	施策Ⅳ-21	「自立活動」及び「自己探求(学校設定教科)」の自己評価等				
学習指導	基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るため「学び直し」を行い、学習の目標と指導内容を明確に設定・整理する。	施策Ⅱ-8	考査結果、自己評価等				
	生徒一人一人の力を観点別に丁寧に評価し、その評価の方法に関して再考する。	施策Ⅱ-8	各教科による評価、分析等				
	少人数の利点をいかしつつ、ICTを積極的に活用し、生徒が達成感を感じられるような魅力ある授業を行う。	施策Ⅱ-9	授業アンケート、自己評価等				
	生徒一人一人の良さや可能性と主体性を大切にすきめ細かな学習活動を行う。	施策Ⅳ-23	各活動の実施記録、評価等				
進路指導	探究的な活動を通して自ら学ぼうとする姿勢や他者と協働しようとする態度を育成する。成果を進路へ生かす生徒を10%以上とする。	施策Ⅰ-1	生徒の探究的な活動の成果や自己評価や進路実績等				
	地域の文化や人々との関わりを大切にし、その一員として地域に貢献する心を培う。総合的な探究の時間の50%以上を地域との連携活動とする。	施策Ⅰ-4	企業との連携、高大連携による進路行事の充実				
	基礎的・基本的な学力の定着を図り、自己実現に向けた態度を育成する。	施策Ⅱ-8	各種教材等の有効的な活用				
	自己の適性や可能性を理解し、キャリアプランナーや外部機関と連携したキャリア教育を推進する。	施策Ⅱ-13	総合的な探究の時間の充実				
生徒指導	保護者との連携を密にして、全職員の共通理解・共通行動のもと、身だしなみ・遅刻・授業規律等の学校生活における規範意識の向上を図る。	施策Ⅱ-13	身だしなみ指導・授業実態の報告内容				
	信頼と愛情に基づく共感的な生徒理解に努め、予防的・共感的教育相談を推進し、いじめや不登校への迅速な対応に努める。	施策Ⅰ-3	いじめや不登校に対する対応と報告内容				
	学校・保護者・地域が一体となって取り組む体制づくりを整備し、社会参加活動を援助する。	施策Ⅲ-19	MSリーダーズ活動の報告内容				
	必要に応じて、個別の支援計画を作成し、より細かな支援を実施する。	施策Ⅳ-23	個別支援の実施報告内容				

来年度に向けての改善方策等

実施日：令和8年 月 日

学校関係者評価

実施日：令和8年 月 日